

青森県立郷土館収蔵庫空調改修工事に関する取り組み(2)

杉野森淳子¹⁾

Efforts on repair work of storage compartment air conditioners at Aomori Prefectural Museum (2).

Junko SUGINOMORI

Key Word : 博物館資料, 収蔵資料, 収蔵庫, 保存環境, 資料整理

はじめに

平成 29 年度の空調改修工事について、前号では改修工事実現までの過程を学芸課の収蔵資料大移動への取り組みを中心に報告した。今回は、平成 29 年度に行った収蔵庫全資料搬出から改修工事・休館中の資料整理・資料の再収納の詳細と、平成 30 年度の改修後の状況についての報告である。

1 改修工事前の資料搬出—平成 29 年 4～8 月—

平成 29 年度に入り、ついに改修工事に向けての資料搬出作業が始まった。

8 月からの本格的な資料搬出に備え、現時点の収蔵資料の内容・配置の確認作業を 5 月から行う。しかし現状では各収蔵庫内は飽和状態であり、資料を確認する作業スペース自体が充分にない。

そこで手始めとして 4 月は各収蔵庫内に作業空間を確保するため、床置き資料や図書など、館外の一時退避場所に置いて劣化の影響が少ないものを優先的に選択して搬出することにした。資料は、各分野（自然、歴史、民俗）担当で箱詰め・梱包・移動専用ラベルを貼った上で、大ホールに集約した。



写真1 大ホールへの集約状況 (平成 29 年 4 月)

なお、今回、資料の紛失および資料移動の円滑化対策として、資料移動用に収納箱等の内容・移動前後の収納場所を明記する専用ラベルを作成している。

分野	考古	資料区分 (レベル)	B
資料名	89-16, 89-17 1614-5, 2079-53		
収蔵場所: 移動前	5-C-5		
待避場所	考古展示室		
収蔵場所: 移動後	5-B-3		

サイズ
タテ 6.5cm
ヨコ 11cm

●資料区分 A 指定文化財（重文、県重宝等）、B 博物館登録資料、C 参考資料

写真2 資料移動用ラベル（考古分野）

1) 館外への資料搬出

資料の保管場所として、平成 29 年 3 月末で移転した県立青森商業高校旧校舎体育館を 4 月から一年間借用した。第一体育館を博物館資料の置き場とし、資料搬入前に、資料保管に適する環境整備を行った。

- ・害虫除去 → 床清掃
- ・ガラス保護 → 中古の展示パネルを 1 階窓ガラスに設置
- ・光を遮断 → 1、2 階の窓に暗幕取り付け
- ・風、虫対策 → 扉の目張り
- ・資料保護 → 段ボールの上にブルーシートを重ねて資料置き場とした。
- ・温湿度測定 → データロガー設置 (5 月～)



写真3 青森商業高校旧第一体育館への搬入 (平成 29 年 7 月)

1) 青森県立郷土館 主任学芸主査 (〒030-0802 青森市本町二丁目 8-14)

4月18日に、大ホールに集約していた資料を体育館に移動した。資料は、分野毎にブルーシートの上にまとめた。これが、外部施設への資料移動の始まりである。なお、青森商業高校旧校舎のうち、第二体育館は物品・什器類、今後使用しない物品などの仮置き場として利用した。



写真4 体育館窓ガラスの養生

収蔵庫資料全搬出に向けて、5月からは各収蔵庫の現在の見取図・棚収納状況図作成、箱番号付け、箱内容確認、移動用ラベル貼りを各分野担当者で行った。

5・6月は、民俗資料を中心に館外へ搬出した。漁具や農具など重ねられない資料、大きい資料が多いため、搬出には述べ7日を要した〔4トントラック、一日2・3往復〕。この期間は通常開館であったが、資料を直接収蔵庫からエレベーターで降ろし、バックヤードから搬出したため、開館業務には影響していない。

このほか、歴史分野では近現代の木製・鉄製資料や家電資料類を、自然分野では寄贈された図書類を体育館に待避した。なお、各資料の運搬は専門業者に委託して行った。

2) 一時保管場所に課題のある資料

資料の退避場所は指定資料、寄託資料、借用資料を大ホール壁面ケース内へ、そのほかは各分野の常設展示室を基本とした。しかし資料の特性により、常設展示室に保管が不向きな資料もあり、保管場所を別途工面した。

自然分野：植物標本は、人の出入りが少なく、温湿度が比較的安定している3階美術展示コーナーへ集約。

動物剥製は害虫予防のため、収蔵庫以外での露出保管は避ける必要があり、大ホール移動展示ケース内に保管。ただし大型の剥製を入れるケースがないため、露出保管となった。

民俗分野：大型ねぶたの顔の部分は、現状のエレベーターで搬出は可能だが、新設されるエレベーターには入らないため、工事の間も収蔵庫で保管することになった。民俗収蔵庫は最上階であることから、天井の工事もあるため、養生を念入りに行い、工事区画に応じて庫内で移動して保護することとした。また、別途ねぶた面の保管ケースを作成することにした。

3) 館内全体を総チェック、館内の各倉庫内の整備

収蔵庫が飽和状態になってから、館内の各所が資料置き場と化し、各倉庫やバックヤードである荷解場・車路も資料や物品等で埋め尽くされていた。倉庫は展示室に隣接しているため、休館日を利用してこれらの整理を行った。一旦各倉庫を空にし、新たに編成した各倉庫の利用割当に沿って、収納棚や資料・書類・物品を再収納した。倉庫から搬出した物品・資料は、状態と活用頻度を見極めて残すものと処分するものとに仕分けをした。倉庫には、当館開館に関する書類・図面、一括寄贈された

未整理資料など、現職の学芸員が初めて目にするものも多数あった。

4) 展示室への資料移動

常設展示室が休館となった7月24日から、資料置き場となる展示室と運搬通路の養生、自然・歴史展示室への収納棚設置を業者に委託して行った。考古資料はすべて、他分野は重量のある物・大型資料等の搬出を専門業者に委託した。7月31日からは各分野で適時収蔵庫から展示室へ資料を移動した。エレベーターの利用日や、職員・解説員の割り振りは、各分野間で調整して、搬出作業を進めた。

資料置き場となった展示室は、収蔵庫環境に準じて空調を20℃とし、24時間換気に変更した。各展示室の温湿度はデータロガーで1時間置きに測定した。



写真5 資料待避状況（考古展示室）



写真6 資料待避状況（自然展示室）

展示室に棚を設置して標本箱を収納。画面左は液浸標本類

5) 大ホールへの移動

特別展資料撤収後の8月29日から大ホールへの移動を開始した。第6収蔵庫（図書室として利用）から書籍を収納した段ボール箱を手渡しで搬出した。指定資料の移動、自然分野動物剥製資料の移動を行い、8月31日で収蔵庫からの資料搬出はすべて完了した。

6) 指定資料（重要文化財、県重宝）の移動

当館には、重要文化財三内丸山遺跡出土品や重要有形民俗文化財津軽・南部のさしこ着物をはじめとした指定資料が26件3588点（平成29年4月時点）あり、各分野一般収蔵庫および考古指定資料収蔵庫に保管している。これらは全館休館（8／

28～) 後に大ホール壁面ケースに保管する予定であった。

重要文化財三内丸山遺跡出土品のうち、木製品・骨角器は脆弱資料であることから温湿度調節可能な場所での厳重な保管が必要である。だが当館大ホールではその設備が不十分であることから、これらの保管場所が問題となった。当遺跡の指定品は当館と県立美術館収蔵庫に保管していることもあり、木製品・骨角器は空調設備が整っている県立美術館に保管することとした。移動は当館休館日である6月26日(月)に実施した。この重文移動に伴う文化庁への連絡・書類手続きについては、年度当初から担当部署である青森県教育庁文化財保護課で進めた。

このほかの指定資料は、特別展終了後の全館休館直後の8月30日に、各収蔵庫から大ホールに移動し、分野毎に大ホール壁面展示ケース内に収納した。外気の影響が一番小さい東側壁面ケースに民俗と歴史資料を、西・北・南側壁面ケースには考古資料を収納した。指定資料の運搬は美術品梱包専門業者に委託し、さらに考古資料の移動では、大型土器の収納箱の作成も行った。

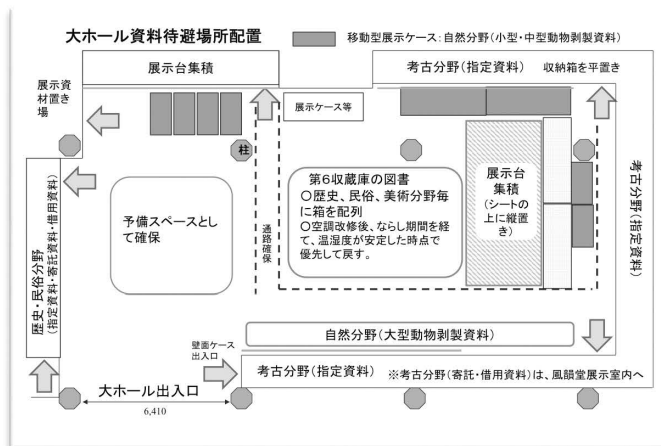


図1 大ホールの待避資料配置図



写真7 大ホールでの資料待避

7) 収蔵庫内の棚

収蔵庫内の棚は、当初は搬出し資料仮置き場である展示室で使用する予定であったが、棚の解体・移設に予想以上に時間を要することや、棚自体の置き場が展示室では間に合わないことがわかった。そこで改修工事業者と工事内容を確認の上、改修工事の支障にならない範囲でそのまま残すこととした。全資料搬出後、工事の妨げになる分の棚は展示室に移動または

解体して庫内に置いた。棚は庫内中央に集約し養生シートで覆って保護した。

8) 荷解場改修

バックヤードには二つの問題点があった。①資料置き場化し空き空間がない。②資料搬入経路に仕切りがないため、車寄せのシャッターを開けると外からエレベーター前までが外気が入ることである。また搬入資料の一時保管場所であった荷解場は、後に木製棚が造作されたことでシャッターが下ろせず仕切れない状態でもあった。

本来のバックヤードとして機能させるため、資料移動後の8月に荷解場の改修も実施した。*仕切扉は別途3月に設置

- ・シャッターを塞いでいた木製棚の部分撤去
- ・木製棚の造作(収蔵庫に入らない大型資料、出前授業等教育普及資料専用棚)
- ・搬入路に仕切扉を設置(透明アクリル板、スライド式)



写真8 バックヤード 資料移動後、改修直前



写真9 バックヤード改修後の現状(平成31年1月)

2 改修工事—平成29年9月～平成30年1月—

改修工事は9月4日(月)から着工した。庫内外を養生後、壁面の改修から開始となった。当初は既存の壁面下地を利用し断熱材・調湿板を設置する計画であった。各収蔵庫の既存の壁面ボードを撤去したところ、既存下地の腐食が予想以上に進行していた(写10-3・4)。これが今回の改修工事での大きな問題であった。

収蔵庫の壁面には、豪雨による雨漏りや積雪による結露を受



1 改修前の養生



2 壁に残るかびの痕（黒いシミ）



3 壁面ボード撤去。下地骨組みと断熱材の劣化を発見



4 下地の根元の腐食がはげしい



5 新設された下地骨組



6 新たな断熱材を充填



7 改修完了

写真10 収蔵庫の改修経過 / 1階、第2（自然）収蔵庫

けた痕跡が残っている。特に1階にある自然収蔵庫は建物の老朽化もあり結露など天候による影響が大きかったため、下地の腐食もやはり激しかった。他の3つの収蔵庫の壁面には過去の雨漏りの痕跡はわずかにあったが、下地の腐食は自然収蔵庫と同じ状況であったことは想定外であった。

既存下地をこのまま使用するのには危険と判断し、工事業者と協議の上、4つの収蔵庫の壁の下地を急ぎ新設することにした。既存の下地をそのまま残して、手前に新たに設置した。骨組の間隔は既存より狭くすることで、強化な下地ができている(写10-5)。

断熱材は地上階にある3つ[自然・歴史・民俗]の収蔵庫の壁面に充填した(写10-6)。地下1階の考古収蔵庫を含め、4収蔵庫の壁面全面には調湿ボードを貼り付けた。なお最上階の民俗収蔵庫は天井部にも断熱材と調湿ボードを取り付けしている。

壁面改修を終え、9月下旬から空調本体の工事に入り、10月中旬には各収蔵庫に新たな空調設備が備わった(写10-7)。

- ・空調設備1式(各収蔵庫毎で温湿度調節可能)
- ・加湿器1台(空調器と連動して作動する)
- ・自動温湿度測定機器1基(中央監視型)
- ・サブエアコン1台:考古・自然・歴史・民俗収蔵庫に追加導入

工事を進める過程で、新設の本体機器のみでは季節により温湿度を一定に保てない可能性が生じたことから、4つの収蔵庫には空調能力を補うためにエアコン(温度調節のみ)が追加された。サブエアコンは収蔵庫中央奥の天井に設置、自然収蔵庫は他の収蔵庫より天井が低いため入り口天井に取り付けている。

また各収蔵庫の扉は、気密性のあるセミエアタイト扉に交換した。

10月下旬からは試運転を開始し、改修に伴う空気中の有機溶剤物質除去や収蔵庫内の温湿度状況を調整する枯らし(ならし)期間に入った。枯らし(ならし)期間は重要文化財公開承認施設の収蔵庫改修における推奨最短期間である約3ヶ月(11月～1月)を見込んだ。

- ・収蔵庫温湿度自動計測(機械室での中央監視装置)
- ・ケミカルシート(酸、アルカリ用吸収材)の設置
- ・活性炭入り不織布シート(空気浄化用)の設置
- ・酸・アンモニア濃度計測

11月29日には、重要文化財公開承認施設の改修状況の確認のため、管轄する東京文化財研究所の検査を受けた。検査時に温湿度測定にデータロガー等精度の細かい測定方法を求められたことから、各収蔵庫にデータロガーを設置した。12月・1月の環境測定データ(温湿度、酸・アンモニア濃度等)を東京文化財研究所に提出し、空調環境に問題がないとの報告を受けた。これで改修後の枯らし(ならし)は無事できたことになり、収蔵庫の改修工事は完了したことになる。

エレベーター改修工事は、空調設備工事が終了した後、11月中旬から1月末まで行われた。既存のものを撤去し、新たなエレベーターが導入されている。

3 休館中の資料整理—平成29年9月～平成30年2月—

これまで作業スペース・時間・人手不足もあり、集中して資料を点検することができなかったことから、全館休館の7ヶ月間は、展示室等に待避した収蔵資料の点検作業を行った。資料の状態や番号確認のほか、資料のデジタル化やリスト作成を行った。また、考古分野では資料の水洗や土器片の入れ替え、自然分野では液浸標本の入れ替え、歴史・民俗分野では資料の水拭きでのクリーニングなどをこの期間に集中して行った。

収蔵資料以外の図書や過去の企画展のポスター・リーフレット、物品・書類の整理も行った。中でも、ポスター類の整理では、開館時のものもあり、当館の歴史を語る上での貴重な資料の発見であった。この整理したポスターの一部は、休館明けイベントで公開することとなった。

これらの作業には、分野担当学芸員とともに解説員全員が携わっている。資料整理への解説員の協力は、解説員自身の博物館資料への知識充実をはかり、今後の解説に役立つことから、実現したものである。解説員13名は、各分野に2・3名を配置し、週ごとに1人ずつ交替するローテーションを組んだことで、解説員全員が全分野の作業に携わった。

今回の資料整理および館内での資料移動が円滑に進んだのは、解説員の協力が大きな力となった。



写真11 液浸標本の入れ替え(降雪の中、外で行いました)



写真12 土器片の詰め替え(ホコリが舞うため、ビニール袋で養生して行いました)



写真13 民俗、歴史資料のクリーニング
(降雪前の寒い中、体育館で水拭きもしました)



写真14 美術資料の整理
(資料の状態確認と、大きさを計測しデータ化中)



写真15 ポスターの整理
(企画展ポスター一覧表と枚数の照合、状態確認)

4 改修工事後の資料搬入—平成30年1～3月—

空調改修工事が終わった12月からは、収蔵庫へ資料を戻す準備に入った。1月は各分野で新収蔵庫への資料配置図作成に取り組んだ。新たな収蔵庫は、壁面に下地を増設したことにより、一回り狭くなった。また新たな空調機器も以前より大きくなり、各収蔵庫の収蔵スペースは幾分小さくなったことから、以前と同様の配置ができなくなった。

収蔵庫に資料を戻すために、新たな配置を考えなければならず、各分野担当は、棚の位置や棚板の高さ、資料の入れ方を工夫して新たな資料収納配置図を作成した。必要に応じて新たに

棚やラックパネル等を導入した。

収蔵庫内の環境調査を終え、エレベーター完成後の2月から、展示室から収蔵庫への資料の戻しに入った。収蔵庫からの搬出時同様、各分野にエレベーターや台車の利用、人員の配置、移動日を割り振りして行った。外部の待避場所である青森商高旧体育館からの移動は、降雪の影響が少ない時期である2月下旬に行った。収蔵スペースが以前と異なることもあり、整理しながらの再配置には時間を要することもあったが、3月上旬には収蔵庫への資料戻しが完了した。

中旬に収蔵庫内の資料燻蒸を行い、そして3月下旬からは4月1日の開館に向けて、展示・イベントの準備をした。

また、大ホールに待避していた図書類の戻しは、12月に行った。第6収蔵庫は一般図書専用の保管であること、工事は空調機器のみであり有機溶剤の使用が少ないことから、他の収蔵庫に比べ短期間の枯らしで適正な環境となった。



写真16 民俗資料の収蔵庫への戻し
(箱から資料を出して、棚に収納中)



写真17 自然資料の収蔵庫への戻し
(棚板増設により、収納力アップ。整然と並ぶ剥製)

5 改修後—平成30年度—

1) 開館イベント

4月1日(日)、7ヶ月振りの開館を迎えた。この日は営業再開記念として無料開放とした。

再開イベントは、休館中の業務に関するものを行った。

- バックヤード見学(4月1日のみ)
- 休館中の業務紹介のパネル展
- 過去の企画展のポスター展

バックヤード見学は当館初の企画であった。見学希望者は定員以上になり、見学回数を増やして対応した。好評につき、5月の連休期間にも実施し、こちらも各回見学者が大勢であった。



写真18 バックヤード見学
(通常は左側の棚に収納している出前授業用の資料公開)



写真19 過去の企画展ポスター展

2) 収蔵庫の状況

空調機器の新調により、収蔵庫内の温湿度環境は4月以降、ほぼ安定している。設定は20℃、55%を基本とし、湿度の変動は年間・一日を通して55～60%である。

地下にある考古収蔵庫では、一昨年までは夏期に除湿器3台で湿度60%台を何とか維持していた環境が改善された。

これは、設備面では、収蔵庫壁面の断熱材・調湿材と、高気密性エアタイト扉を取り入れた効果である。さらに資料収納面では、庫内に空気が循環するよう棚の配置、資料の入れ方を工夫したことにもよる。

ただし、改修した7つの収蔵庫のうち、第6・7収蔵庫と自然資料室は、1～4収蔵庫に比べると、温湿度が不安定である。時期によっては65%に達する。自然資料室は逆に50%に下がることもあった。これらの収蔵庫は空調を改修したのみである。不安定な要因は建物の構造が影響していると考えられる。6・7収蔵庫は、昭和6年建造の銀行の旧館にあり、元は金庫であった。そのため周囲は厚いコンクリート壁で覆われ、耐火・耐震性は高い。この厚い壁の熱伝導率が温湿度に影響していると考えられる。自然資料室は、開館時に新設された部屋であるが、一般執務室仕様であり、壁面はコンクリートである。さらに上に機械室があることなども起因する。これら収蔵庫の環境を整えるには、内壁の設置など内装を工夫する必要があると考えら

れる。

バックヤードは、仕切りができたこと、資料を整理したこと、搬入資料の一時保管場所としての本来の機能が保たれている。

3) 運用上の対策

①収蔵庫内の使い方

収蔵庫の適正な環境を維持するためには、資料の扱いや収蔵庫の使い方にも注意しなければならない。これまで収蔵庫の利用に関する具体的なものがなかったため、資料管理に関する運用ルールを検討中である。

例として、今回の改修により、収蔵庫内の土足禁止の徹底。入室前には粉じん・ホコリを除去する粘着マットを通る。収蔵庫の定期清掃、資料の定期点検などである。

これらの実施には、学芸課をはじめ館全体で取り組むものであることから、館の運営に携わる全員に向けての勉強会も必要となり、6月に実施している。次回は3月を予定。

- ・6月 資料保存環境に係わる研修会第1回

「文化財IPM(文化財管理環境システム)の取り組み」

- ・3月 第2回「改修後の一年間の状況、資料管理運用」

②機器類

新調した空調機器本体と、本体に連動する加湿器は365日24時間稼働している。加湿器は、夏はほぼ停止状態(稼働能力率は9%以下)、ほかの季節は湿度を上げるため30～80%で稼働している。サブエアコンは、収蔵庫の温度が上昇し始めた6月から稼働させ、9月末まで使用した。これまで長年停止していた空調が稼働したことで、新たな光熱費や機器類のフィルター等消耗品の維持管理費が生じている。収蔵庫の適正な温湿度環境の維持に合わせて、導入した機器類を長く使い続けるためにも、温湿度状況をこまめに確認しながら、調整することが必要である。

4) 今後の課題

博物館の空調環境整備は、収蔵庫だけでなく、展示室も重要である。当館展示室の空調は、以前の収蔵庫同様に部屋毎の個別設定ができないタイプであることから、展示室の温湿度は季節に応じて外の環境と同様に変化する。展示室の空調も各展示室の位置、展示資料の特質にあわせて調整可能なものに替え、一定の温湿度を保つ必要がある。

今回改修した収蔵庫のうち、温湿度環境が不安定な3室については、今後の温湿度の経過観察から、安定化に向けて対策を考えていきたい。

おわりに

平成29年度の資料搬出入および資料整理は、空調設備改修工事本体の進捗状況に合わせて、随時作業内容を組み直すなどして進めた。この大がかりな資料移動で、資料の破損や事故がなかったことは計画を担当したものとして何よりであった。

これは、実際に作業を行った職員・解説員の協力のおかげである。工事関係者・予算等調整機関を含め、皆様に感謝申し上げる。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
館内利用	■大ホール (特別展示室)		企画展 4/28～5/14	企画展:5/26～6/25	特別展:7/8～8/27								
	■常設展示室		通常開館 ～7/23まで										
	■小ホール				特別展で使用								
改修日程	●空調 (1～4・6・7) ●収蔵庫、自然資料室 ●エシレーター							空調工事 (2ヶ月)			エシレーター工事 (2.5ヶ月)		
	◇旧青森商高	養生	梱包・運搬(2ヶ月)		※民俗、自然(標本以外)、その他								2月下旬:青森から戻し
資料待避場 ／収蔵庫	◇常設展示室			資料移動の準備	養生	運搬		※1収、2収、3収、自然資料室					資料戻し (1ヶ月)
	◇大ホール					梱包		※7収・1収他の指定資料					環境測定
													養生・清掃 くんげ 養生・撤去

【空調改修に係わる資料待避場所】太字・下線は空調改修工事あり

現保管場所	資料待避場所	資料移動準備	資料移動	資料移動後の注意
○民俗分野				
第4収蔵庫3F、 荷解場1F、第2倉庫2F、焼却室B1	資料 → 一部 青商 資料 → 民俗展示室 指定資料 → 大ホール壁面ケース内	資料確認(学芸課)、梱包・運搬(委託)に1ヶ月 資料移動準備	資料移動 収蔵庫 ↓ 常設展示室へ (8/28まで) ※運搬は職員、大型のもの第一等は業者委託 移動順番 考古(2日) →自然(5日) →歴史(5日)	資料移動準備 指定資料移動、運搬は委託／文化財保護課立ち会い 体育館での資料整理
○歴史分野				
第3収蔵庫2F、 第2・5倉庫2F、 荷解場1F	未整理資料、本等 → 青商 資料 → 歴史・先人展示室 指定資料・借用・寄託資料 → 大ホール壁面ケース内	梱包・運搬 資料移動準備	資料移動 収蔵庫 ↓ 常設展示室へ (8/28まで) ※運搬は職員、大型のもの第一等は業者委託 移動順番 考古(2日) →自然(5日) →歴史(5日)	資料移動準備 指定資料移動、運搬は委託／文化財保護課立ち会い 体育館での資料整理
○自然分野				
第2収蔵庫1F、 自然資料室 3.5F、消費室 1F、第3・4倉庫2F	標本類以外 → 青商 標本類 → 自然展示室、 郷土学習室、大ホール	梱包・運搬 資料移動準備	資料移動 収蔵庫 ↓ 常設展示室へ (8/28まで) ※運搬は職員、大型のもの第一等は業者委託 移動順番 考古(2日) →自然(5日) →歴史(5日)	資料移動準備 指定資料移動、運搬は委託／文化財保護課立ち会い 体育館での資料整理
○考古分野				
第1収蔵庫B1、 第7収蔵庫1F	資料 → 考古展示室 指定資料 → 大ホール壁面展示ケース内、 県立美術館 寄託・借用資料 → 風韻堂展示室	資料移動準備	資料移動 収蔵庫 ↓ 常設展示室へ (8/28まで) ※運搬は職員、大型のもの第一等は業者委託 移動順番 考古(2日) →自然(5日) →歴史(5日)	資料移動準備 指定資料移動、運搬は委託／文化財保護課立ち会い 体育館での資料整理
○その他				
第6収蔵庫1.5F	一般図書 → 大ホール 物品・書類・ポスター → 先人展示室	梱包・移動	資料移動 収蔵庫 ↓ 常設展示室へ (8/28まで) ※運搬は職員、大型のもの第一等は業者委託 移動順番 考古(2日) →自然(5日) →歴史(5日)	資料移動準備 指定資料移動、運搬は委託／文化財保護課立ち会い 体育館での資料整理

■整理後の収蔵庫利用の注意点

- 各分野登録資料優先
- 参考資料と登録資料のうち本・グッズ類等は収蔵庫以外に保管可
- ×当館刊行物は一括して別途保管する。収蔵庫には置かない。
- △当館刊行物・外部からの提供書籍は、6収蔵庫または地下図書室で保管